

岡山のとしょかん

岡山県図書館協会報
(第139号)

久米南町図書館と書票の活動について

皆さんは「書票」という言葉をご存じでしょうか?書票とは本の見返し部分に貼って、その本の持ち主を明らかにするための小紙片のことです。国際的には「だれそれの蔵書から」を意味するラテン語、エクス・リブリス(ex libris)と呼ばれています。多様な図案が用いられ、銅版画、木版画、石版画などで作られています。美術品として収集の対象にもなっており、「紙の宝石」とも呼ばれています。

書票との出会いは、津山市内で開催された書票展で取材をしていた新聞記者が当館を訪れ、「志茂太郎」について知りたいというレファレンスを受けたことでした。調べていくと、志茂太郎が町内出身の方で、書票を普及するために「日本書票協会」を設立した方だということがわからました。そこで、本と深く関わる書票の世界が当館の魅力の一つになるのではないかと思い、書票に関する活動が始まりました。まず志茂太郎邸に残されていた海外の書票や封書を借り受け、書票展を開催しました。また、消しゴムはんこを使った書票教室を行い、作品を当館の蔵書に貼りました。これらの取り組みにより、参加者や来館者に書票を身近に感じてもらう機会になったと思っています。平成30年10月には岡山文庫(『志茂太郎と蔵書票の世界』)が日本文教出版から発行され、その中で「志茂太郎と久米南町図書館」というテーマで、これまでの書票活動を紹介しました。これらの活動を通じ、日本書票協会会長の内田市五郎氏ともつながりができ、令和5年、内田市五郎氏の計らいで、日本書票協会所蔵の書票約5000点を譲

り受けました。この出来事は夢のようなことで、今後の書票活動をしてゆく上で、大きな軸となります。昨年度の書票展では、「志茂太郎と版画作家たち」をテーマに譲り受けた書票の内、志茂太郎にゆかりのある前川千帆、武井武雄、畦地梅太郎などの作品を展示しました。今年度は「彩(sai)~いろいろの書票展~」をテーマに現在開催中です。今回はランプや自転車などレトロなモチーフの作品や、生き物や風景をモチーフにした作品など、特にカラフルな書票を展示しています。書票に触れる機会として多くの方にご覧いただきたいです。

来年、当館は25周年を迎えます。そこで今年度、記念イベントとして、書票のデザインを募集しました。テーマは自由で優秀賞に選ばれたデザインを消しゴムはんこで作り、書票にするというものです。

書票は本の見返し部分に貼る小さな紙片ではありますが、そのひとつひとつの作品には目を見張るものがあります。これらの古い作品の中に私たちは懐かしさや、斬新を感じています。1件のレファレンスから始まった書票を広める活動を通じて、本を大切にする心を育み、郷土の人物、志茂太郎のことをこれからも伝えていければと思います。



[志茂太郎書票]



[常設の書票展示ケース]

(久米南町図書館 国忠 成子、金畑 恵子)

津山市立図書館 「どこコレ？@津山市」

「写真のこの山の稜線から地図のこの場所だと分かります」「付箋情報から、昔あった給水塔がここに写っています。ですからここは津山市川崎の辺りですね」と講師が解説すると「この辺りは昔、●●があったんよ」「今は公民館が建っているところだね」会場から様々な声が。講師が写真を解き明かして参加者はそれを拝聴するだけでなく、知っていることや意見をどんどん発言してかまいません。室内にいるみんなでワイワイがやがやと盛り上がっておりました。



[どこコレ？@津山市 解決編の様子]

初めての開催は令和3年11月。コロナ禍の只中でした。人を集め行事ができない中、「どこコレ？」という写真を使ったイベントがあることを知りました。NPO法人20世紀アーカイブ仙台が実施している「どこコレ？－おしえてください昭和のセンダイ」です。市民から集めた貴重な古い写真でその場所や時代が特定できないものを展示し、観覧者に情報を寄せてもらい、写真の特定を行うものです。しかも申請すればオリジナルのロゴやノウハウも使えるとのこと。まずはやってみようと第1回を開催することに企画を立てました。①写真の募集、②複製した写真の展示、③写真の解説を行うことにしました。

まず①写真の募集からです。どんな写真が何枚集まるのか不安な中、幸い30枚ほど応募してい

ただけました。次に②事務用のコピー機で写真をスキャンしてデジタルデータ化します。古い写真には小さなものから写真館が撮影した大きなものまで色々なサイズがありますが、全て同じA4サイズの写真用紙に拡大・縮小して展示します。ガラス乾板の時代の写真は大型プリン



[展示の様子]

タで拡大しても鮮明に詳細が見えるので一緒に拡大版も貼りだすとインパクトあるものになりました。1か月ほど展示する間に観覧者から場所や年など付箋で情報を書いて貼ってもらいます。時には職員が聞き取りをして手がかりになる情報を書いたりもしました。そして③「解決編」では尾島治さん(元津山郷土博物館館長)に写真の解説をしてもらいます。講師の知識とインターネット公開の地図情報などから解き明かすさまは、まさに名探偵です。それでもどうしても場所が判明しないものもあります。仮装行列の津山町制記念の写真はいまだ謎のままで。また、集まった写真の一部は津山市立図書館公式flickrに掲載しました。写真を募集する時点からflickrへの掲載の可否もお尋ねしてデジタルアーカイブにつなげるようになっています。回を重ねて写真のデータは100枚を超えました。図書館の展示コーナーだけでなく市役所市民ホールでも展示をして好評を博しました。

今後は、写真のさらなる応募をいただけるよう市民に働きかけていくことと、10代20代の参加が無いので、世代を超えた交流ができればと思っています。

NPO法人20世紀アーカイブ仙台のホームページで『「どこコレ？」のつくり方』として開催のノウハウも公開しておられます。あなたの館でも開催してみませんか？きっととりこになりますよ。 (津山市立図書館 有元 康子)

図書館ギャラリー

岡山県立大学附属図書館では、利用促進の一環として、図書館全体をギャラリーに見立て、学生や教員に貸し出す取り組みを行っています。図書館利用を妨げなければ、館内のどこにでも展示が出来ます。また、館内的一部壁面にピクチャーレールを設置しており、絵画作品のほか研究ポスター展示などを行うことも可能です。

これまで、展示用ガラスケースはもちろん、閲覧席の机上、書架の中、天井からの吊り下げなど、様々な場所がギャラリーとして利用されました。

内容は本学の学部の専門に関する展示が多く、デザイン学部の学生作品や、情報工学部の授業で製作されたロボットも展示されました。

展示の様子は、本学附属図書館ウェブサイトに掲載しています。

<https://www.lib.oka-pu.ac.jp/archives/category/gallery>

これまでの主な展示をご紹介します。

■授業課題作品『ぱん屋 としょ館』

作品（布製のパン）を、展示ケースや書架の隙間に展示。「主食のひとつであるパン。特に食パンを見ていると、本に似ているなあ、と思いました。パンなのに本のフリをして本棚にいるパンを探してみて下さい。」（キャプションより）

■同窓会館模型

岡山県立大学同窓会館を設計した本学教員制作の模型と、記事が掲載された雑誌を展示。

■授業課題作品『句集の装丁』

デザイン学部の授業「コピーライティング」で、自分の句集をイメージし「代表句」「句集名」「帶文」とともに「俳句の世界をビジュアル的に表現」した表紙の装丁作品を、閲覧席机上等に展示。

■授業課題作品①『土鍋』②『コーヒーカップ』

デザイン学部の演習授業で制作された作品を、雑誌書架の上に展示。「手捻りによる自由な造形と、鍋としての機能性を考えました。」（①キャプションより）「想定したカフェで使うための、反

復生産を前提とした食器の提案。」（②キャプションより）

■『NARIWA FLORA』ミュージアムグッズ

高梁市成羽美術館と本学デザイン学部の学生が共同でミュージアムグッズを企画・制作する地域連携プロジェクトで、実際に販売したグッズを、ガラスケースに展示。

■授業課題『自律型移動ロボット競技会作品』

情報工学部授業「システム創造プロジェクト」で学生が製作し、学内で開催されたロボットコンテストに参加した自律型移動ロボット作品を、雑誌書架の上に展示。

■ウクライナ文化紹介展示

本学教員が、交流のあるウクライナの方から借り受けたウクライナの伝統工芸品を、ガラスケースやエントランスホールに展示。また、学生が作成した『Cul Cul：世界文化紹介誌 ウクライナ編』（図書館に寄贈）を作品と一緒に展示。

これまでの展示作品：ピーサンキ（蠟結染めで卵の表面に模様を描く）・モタンカ（ウクライナのお守り人形）・ナミスト（ビーズネックレス）・ウクライナ地図刺繡・伝統刺繡小物作品



[ピーサンキ]



[モタンカ]



[ナミスト]



[伝統刺繡小物作品]

図書館は学生が学部問わず集まる場所であり、このギャラリーを通じて、他学部の授業内容や作品などに触れられる機会にもなればと思います。

（岡山県立大学附属図書館）

本の福袋特集号

吉備中央町図書館の福袋

吉備中央町図書館では、平成24年から「図書館福袋」の貸出を行っています。主に新年最初の開館日から開催していますが、クリスマス福袋として行った年もあり、いろいろと工夫を凝らしています。開始当初から現在まで、利用者の皆様に喜ばれている取り組みですが、町の広報誌への記事掲載やチラシの配布、ポスター掲示、告知放送等を通じて宣伝を行い、より多くの方に利用いただけるように声掛けをしています。

■福袋について

吉備中央町図書館には、かもがわ図書館とロマン高原かよう図書館の2館があります。毎年職員全員で選書し、大人向け福袋30袋、子ども向け福袋30袋の合計60袋を準備し、各館で30袋ずつ貸出を行います。毎年職員が趣向をこらし、利用者に興味を持つてもらえるようなキャラッチコピーを考えます。昨年度から、福袋に雑誌の付録などを一緒に封入してプレゼントすることにしました。何が入っているか分からぬで、利用者の楽しみになっているようです。

新年最初の開館日から図書館福袋の貸出が始まりますが、1週間以内にはすべて借りられます。各館、1日1人ひと袋の貸出ですが、中には両館を回って、1日に2袋借りる利用者もいます。

■利用者参加でつくる福袋

令和2年度には、図書館利用者におすすめの本を1人2冊選んでもらい、その本で福袋を作成する取組を行いました。また、令和6年12月に開催した小学生向けのワークショップ「体験ブッククラブ 図書館福袋をつくろう！」では、小学生に、子ども向けのおすすめの本を選んでもらい、オリジナルの福袋をつくってもらいました。

した。イラストやデコレーションが施された福袋は利用者にも喜ばれ、「子ども向けの本だけど絵が好きだから借りたいな」という声もありました。



[体験ブッククラブでの福袋づくりの様子]

■移動図書館車の利用者へのプレゼント

移動手段がなく来館が困難な方に向けた町内巡回図書サービス「移動図書館車こっぴり号」の利用者には、福袋の代わりに小さな封筒に入れた「福だるま」を用意しました。職員がひとつひとつ折り紙で作成し、顔や文字を書き入れたカラフルで可愛らしいだるまは、多くの方に喜ばれました。



[職員が折り紙でつくっただるま]

今後も、図書館福袋をきっかけとして、様々な方に来館していただけるよう、努力と工夫を重ねていきたいと思います。そして町民の皆様の生涯学習の場、憩いの場として、更なる発展に努めたいと思います。

(吉備中央町図書館 松原 文音)

新年は本のお楽しみ袋から

年始の風物詩となりつつある、県内図書館共同企画「新春図書館福袋」。浅口市にある金光図書館は、「本のお楽しみ袋」と称して参加させていただき、早数年となりました。福袋愛好家の筆者としても気合いが入る図書館イベントです。テーマ決めから本の選定、梱包まで、数名の職員がああでもないこうでもないとわいわい楽しく取り組んでいます。

お楽しみ袋は大人向け10袋、子ども向け15袋を用意し、ありがたいことに毎年すべて貸し出しされています。それぞれ多種多様なテーマを考え選んでいくのですが、新年の干支や季節などの定番から「和菓子」や「ハワイ」、「手しごと」など、職員の趣味が反映された個性的なものも。果たしていつ利用者さんに自分が作った福袋を手に取ってもらえるか、内心ドキドキしています。また、おまけのプレゼント（点字用紙を再利用したポチ袋）も手作りして同封しています。



[大人用お楽しみ袋]



[点字用紙で作ったポチ袋]

■大人向けお楽しみ袋の失敗談

令和6年は、「色」や「気持ち」など、やや背伸びをして抽象的なテーマもチャレンジしてみました。ですが、少し趣向を凝らしすぎたのかいつもでもその袋だけ残り、やっと手に取ってもらえたのは期間終了のギリギリに…。ホッとしつつもかなり切ない思いをしたものです。令和7年は、その反省を生かしてわかりやすいテー

マを選び、内容が伝わる言葉（例えば『春までに目指せ健康体』）を添えたところ、あっという間になりました。本のお楽しみ袋といえど、やはり中身が分かる方が安心なのかもしれません。

■大人気！子ども向け絵本のお楽しみ袋

子ども向けのお楽しみ袋は、大人とは反対に「もくもく」や「でかっ！」など、「これ何なんだろ？」という謎めいたテーマから貸し出しされていました。不思議なテーマが子どもたちの想像力を刺激したのでしょうか。なかには待ちきれずに「袋の中みせて」と言ってみたり、袋のすき間からなんとか覗こうとするお子さんもいて本当に面白いです。そして、子ども向けの一番人気はなんといっても大きなお楽しみ袋！大きいことは子どもにとってすごく魅力的なんだな、と楽しい発見をしました。



[子ども用お楽しみ袋]

■これからも喜ばれるお楽しみ袋を目指して

本のお楽しみ袋に携わるようになってから、当たり前のことなのですが、図書館には本当にいろいろな本があり、紹介したい本や読んでみたい本が沢山あることを実感しています。日々の図書整理もただの整理だけではなく、まるで宝探しをしているようで図書館で働くことの楽しみが増えました。

利用者さんに新年を嬉しい気持ちで迎えてほしい、本で楽しいひとときを過ごしてもらいたい、とお楽しみ袋作りに取り組んでいますが、もしかしたら一番楽しんでいるのは職員の方かもしれません。これからも利用者、職員双方の発見や喜びにつながる本のお楽しみ袋になるように頑張っていきたいです。

(金光図書館 白石 美智恵)

スペースのハンデを負う、 井原図書館の福袋イベント

井原市井原図書館は、昭和31年に旧井原郵便局として建設されていた建物の払い下げを受け改修し、昭和62年に井原市立図書館として開館した、現在38年目の古い図書館です。もともと図書館を目的として建設されていなかったため、増築などの改修箇所が多く、全体的に狭く開架スペースや展示スペースが十分確保できていないため、開放的であるとは決して言えない図書館です。

今回はそのようなスペースのハンデを負っているわが図書館での福袋イベントの様子をご紹介します。

井原図書館では福袋イベントを県内共同企画で実施される前から行っていました。しかし、福袋を展示して市民の皆さんに選んでもらうスペースが確保できないため、当時から、テーマを書いたカードを目につきやすいところに掲示しておき、本体はバックヤードに保管し、市民が借りたい福袋のテーマを書いたカードをカウンターへ持参してもらい、交換で福袋を渡すという方式にしていました。カードの表面には福袋のテーマが書かれ、裏面には中に入っている本のバーコードをプリントアウトして貼っています。最初にイベントを実施したときには家型のカード置き場を作っていたので、市民の期待感も得られていたのではないかと思っています。

県内共同企画になって以来、県立図書館がデザインした素敵なチラシと袋用帯を活用させていただきながら、同じ方式で続けて実施しています。しかし、テーマのマンネリ化やカードで選ぶ方式が市民から魅力的と感じられなくなってしまったのか、年々福袋が貸し出されるペースが鈍くなっているように見受けられます。また、その他の印象として、市単独

での開始時は児童書のみだったのですが、一般書の希望が多く、翌年には一般書でも作成し、以降、児童書と一般書両方で実施しており、現在では一般書の方が早く全て貸し出されるということが続いています。

他にも、当館では袋の数が48袋と多いため、職員7人で分担すると個人の負担が大きく、図書の選定時に内容の吟味が不十分なまま、タイトルと雰囲気で選んで入れてしまうことがあります。市民の期待に応えきれなかったのではないかとも思っています。

令和8年の福袋イベントでは、作成するセット数を減らして職員の負担を減少させ、また館内に実物を設置し、市民に実際に見てもらって選んでいただく方式で実施したいと思っています。

さて、吉と出るでしょうか。すでに楽しみにしている私です。



[初代の家型カード置き場]



[カードを選ぶ子どもたち]



[出番を待つ福袋]



[職員もワクワクする瞬間]

(井原市井原図書館 山室 真甲)

本の福袋の写真 ～県内図書館の様子～



【岡山県立図書館】



【岡山市立西大寺緑花公園緑の図書室】



【倉敷市立図書館】



【中央図書館・一般室】



【中央図書館・児童室：
風船でかわいくデコレーション！】



[児島図書館
一般室：書架
一面を使って
展示]

【矢掛町立図書館】



県団協セミナー（第1回）に参加して

「生成AIと図書館の共創：情報ナビゲーターとしての司書の専門性と新たな価値創造」

講師：中崎倫子氏

（昭和女子大学 現代ビジネス研究所）

期日：令和7年6月9日（月） 参加者：91名

『大学図書館司書が教える AI時代の調べ方の教科書』の著者である中崎氏に、AI時代の図書館のあり方についてご教授いただきました。

生成AIの進歩は日進月歩で進み、学生など若い世代の使用率が高まっているというデータのもと、レポート課題などの用途でAIが使われる時は当たり前になってきており、情報収集に適したDeep Researchの普及により、今後さらに活用していくのではないかという展望を伺いました。技術の進歩についていくために、まずは図書館職員が日常的に使ってみる、日々情報に触れることが重要ということで、国内外各社のサービスや有益な情報発信者の紹介をしていただきました。

一方、利用者にとって図書館は貸出・閲覧の

場としての側面が強く、情報収集の場としてあまり認知されておらず、期待もされていないというデータが示されました。今後は質の高い情報収集の場として「選ばれる必然性」を作らなければならないということで、利用者への発信や巻き込んでいく姿勢が重要であるというお話をありました。大学図書館職員としての勤務だけでなく、執筆・研究・読書ファシリテーターなど幅広く活動されている中崎氏の言には非常に説得力がありました。

「できることからやってみる」ということで、セミナー後、紹介されていた生成AIを触ってみました。各サービスに個性があり、レファレンスツールのように使い分けるために、今後も学び続けていきたいと思います。

(岡山市立中央図書館 千野 由生)

お知らせ

■理事会・定期総会

令和7年度理事会を5月29日に、定期総会を6月9日に開催しました。当日資料および議事録は協会ホームページで公開しています。

【令和7年度役員（敬称・役職略）】

会長	(施)	岡山県立図書館	大西 治郎
副会長	(施)	岡山市立中央図書館	永田 朱美
〃	(施)	岡山大学図書館	鶴田 健二
理事	(施)	倉敷市立中央図書館	唐渡 文明
〃	(施)	総社市図書館	小原 靖子
〃	(施)	ナトルダム清心女子大学附属図書館	伊木 洋
〃	(施)	金光図書館	高橋浩一郎
〃	(個)	学校司書	井上真紀子
〃	(個)	青年図書館員研修会	佐藤 賢二
〃	(個)	JLA代議員	本山 雅一
監事	(施)	津山市立図書館	菊入 典子
〃	(施)	早島町立図書館	芝原 孝典
参与	岡山県教育庁生涯学習課	滝澤 幸隆	
(※)	(施)	施設会員、(個)個人会員の略	

■本年度の研修

○県団協セミナー（第1回） 6月9日

「生成AIと図書館の共創：情報ナビゲーターとしての司書の専門性と新たな価値創造」

講師：中崎 倫子氏（昭和女子大学 現代ビジネス研究所）

参加者：91名

○県団協セミナー（第2回） 8月6日

「児童・生徒のためのビブリオバトル入門」と美咲町立中央図書館見学

講師：須藤 秀紹氏（近畿大学情報学部 教授）
参加者：89名

○県団協セミナー（第3回） 9月19日

「学校図書館「像」の更新と、公共図書館との協働」
講師：宮澤 優子氏（伊勢市教育委員会事務局教育メディア課 主幹）

参加者：46名

○教養講座 10月11日

「がんについて、知っておいていただきたいこと～基礎知識から情報探しまで～」

講師：若尾 文彦氏（国立がん研究センターがん対策情報センター本部 副本部長）

会場：岡山県立図書館

参加者：60名

○県団協セミナー（第4回） 1月23日

「図書館員のための心理的安全性の高い職場づくり」（仮）

講師：井上 昌彦氏（関西学院 聖和短期大学図書館 司書）

会場：岡山県立図書館

■令和7年度企画委員

委員長 梶原 捩未（岡山県立図書館）

副委員長 梅田 雅也（岡山市立幸町図書館）

委員 岡田 浩子（倉敷市立玉島図書館）

〃 山田 帆風（津山市立図書館）

〃 山室 真甲（井原市井原図書館）

〃 佐藤 結美（矢掛町立図書館）

〃 金光 研治（金光図書館）

〃 木山 知香（新見公立大学附属図書館）

〃 村上 波（くらしき作陽大学・作陽短期大学附属図書館）

■現在、募集中！

○「令和7年度より」個人会員が企画実施する研修事業に対し助成する「令和7年度スキル向上応援事業」を開始しました。ぜひご応募ください。

○研修参加助成事業による令和7年度の派遣者を募集しています。ぜひご活用ください。

○令和7年度研究奨励金の交付申請者も併せて募集しています。積極的なご応募をお待ちしています。

令和7年9月30日発行

〒700-0823 岡山市北区丸の内2-6-30

岡山県立図書館 図書館振興課内

岡山県図書館協会 会長 大西 治郎

TEL：086-224-1269